

電波資源拡大のための研究開発 平成28年度提案公募案件の基本計画書（案）の評価

案件名	実施期間	評価者からの主なコメント
ミリ波帯における大容量伝送を実現する多重伝送技術に関する研究開発	H28～H31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本研究開発は広く多重伝送技術の研究開発を行うものではなく、OAMモード多重という特定の技術に関するものであるのだから、タイトルにOAMと記述すべきである。</li> <li>・同様な目的のバックホール回線の従来技術との対比を示すとさらに良い。</li> <li>・具体的周波数帯が不明なため、各帯域名が初めて出てきたところに、例えばD帯(141～174.8GHz)と明記すべき。</li> </ul>
多数デバイスを収容する携帯電話網に関する高効率通信方式の研究開発	H28～H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギャランティ型サービスを要求している端末のモビリティをどの程度の範囲まで対象にしているか明確にしてほしい。</li> <li>・自動走行などに必要な極小遅延には特別な技術検討が必要となるため、低遅延の中をさらに2分して検討するように要求する必要があるだろう。</li> <li>・提示された数値目標だが、現状技術における数値も対比して示せるとさらに良い。</li> </ul>
第5世代移動通信システムの無線アクセステクノロジーの相互接続機能に関する研究開発	H28～H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題名は“第5世代移動通信システムにおける無線アクセス”のほうが明確である。</li> <li>・通信事業者間での調整をどのように行うのかを明記すること。</li> <li>・「達成基準」に、「2以上の通信事業者」と「1秒以内」で十分か。また、「目標」に、数値目標が記載されていないので、評価がしにくい。</li> </ul>
無人航空機システムの周波数効率利用のための通信ネットワーク技術の研究開発	H28～H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UASで扱う移動速度に幅があり、今回の実施目標がどの程度の速度かを明記する必要がある。</li> <li>・トラヒック適応映像処理技術の開発では、性能評価の上で、提案ではトラヒックモデルとその妥当性を明記することを求めるべき。</li> <li>・飛翔体の重量は10kg程度を想定しているとの記述があったが、同様に電力に関しても、想定数値を記載しておく必要がある。</li> </ul>
地上テレビジョン放送の高度化技術に関する研究開発	H28～H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に「現行の約4倍程度の圧縮伝送効率を実現」とあるが、提案では具体的に周波数利用効率の改善目標を明記することを求めるべき。</li> <li>・固定の場合は電波障害の対策はあるか。移動の場合に対応できる対策は考えているか。また、高さを考慮しているかについて検討すること。</li> <li>・具体的な数値としての到達目標の記述がないのため、中間評価や終了報告時の判定が難しい。某かの数値的な基準が必要ではないか。</li> </ul>
ニーズに合わせて通信容量や利用地域を柔軟に変更可能なハイスループット衛星通信システム技術の研究開発	H28～H31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的の実現性はトラヒックモデル(ペイロードモデル)によって異なると思う。提案ではモデルとその妥当性を明記することを求める必要がある。</li> <li>・衛星搭載環境の試験項目に関してある程度の具体的記述がないと、普通の実験室で普通に作ったKa帯チャネルライザとの区別がつきにくい。</li> <li>・導波管給電系の小型化などは検討対象になっているが、反射鏡自体の検討が不要であるとするのであれば、その理由を明示すること。</li> </ul>

電波資源拡大のための研究開発 平成28年度提案公募案件の基本計画書（案）の評価

案件名	実施期間	評価者からの主なコメント
複数周波数帯域の同時利用による周波数利用効率向上技術の研究開発	H28～H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象とする自営系各システムのトラヒックやエリア規模などのモデルをどう設定するかで目標実現の評価が異なる恐れがある。提案では評価モデルとその妥当性を明らかにすることを求めるべきと考える。</li> <li>・OSI階層で教えたときにどのレイヤで複数無線周波数を統合的に扱うのかが不明である。</li> <li>・ア～ウの各技術の目標(周波数利用率2倍)に対する寄与分を明らかにすることが各技術の開発達成度の評価において必要と考える。</li> </ul>